



## 市民活動の新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り組む市民活動は各地ですそ野を広げている。ファイザー製薬ではヘルスケアの分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、2000年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれず、活動のユニークさと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2001年度の助成対象となった各プロジェクト(左頁参照)を中心に、9回連続(今回は6回目)でリポートする。

簡易宿泊所(ドヤ)には退後の人や寝たきりの人もいて、寿の住民やボランティアが一緒になって支援している(写真左)。街の人たちが集まってくる「さなぎの家」



# 救急車に同乗することで、孤独感、不安感を少しでも和らげることがめざした

特定非営利活動法人さなぎ達

## 横浜寿町「さなぎの家」なんでもSOS班(神奈川県)

簡易宿泊所が密集するドヤの街、横浜・寿地区。さまざまな事情によって仕事や家庭を失い、路上生活やドヤ生活に余儀なくされている人たちが集まる。同地区で生活する人たちの支援活動を行っている「さなぎ達」企画実行室長の岡野明子さんは、

「長引く不況や高齢化で、ちょっとしたきつかけで路上生活を強いられるケースも少なくありません。障害をもつ人も多く、心身ともに疲れた『絶望』と隣り合わせの人たちはばかりです」と、現状の厳しさを語る。

さなぎ達は、そうした街の人たちが安心できる「自立自援」の土壌づくりをめざして、18年にわたり路上生活者の支援を続けてきた「木曜パトロールの会」のメンバーやさまざまな支援者が集まり設立された。

昨年10月には、簡易宿泊所の一部を借り上げて「さなぎの家」を開設。街で生活する人たちの心を癒す交流の場として、毎朝9時から夕方5時まで開放している。集まって話をしたり、お茶を飲んだり、一日に30人くらいが入りする。

ここでは、誰もが気兼ねなく振る舞える。毎週日曜日には「カレーの日」として街の人たちが作ったカレーが出され、訪れる仲間との新しい出会いを試みている。

11月には、「なんでもSOS班」という新しい支援プロジェクトを立ち上げた。急な病気などで救急車で運ばれる人たちと同乗することによって時間を共有し、不安感を少しでも和らげることができたらとの思いからだ。



「街に住む人たちがお互いを支援するシステムづくりをめざしたい」と語る岡野さん

の彼らにとって、支えてくれる仲間がいるということに安心するんですね。たとえ搬送されても、付き添いがあるなしで病院の対応も違いますし、見舞いに行つて話をするだけですぐ元気になつて帰ってきます。近ごろは本当に緊急を要するものだけになり、救急車が来てさなぎの家で預かってしまつようになりまして」

寿地区の生活者の中には、心の障害やさまざまな障害を持つ人たちが多くいる。こういった人の健康を考え、SOS班では、ソーシャルワーカーや福祉事務所のケースワーカーなどの連携も視野に入れている。

## クラシック・バレエのレッスンで障害者の心身の活性を導く

特定非営利活動法人ボーロウニア協会

## 障害児・者に対するダンスワークショップ(東京都)

**2001年度  
助成対象プロジェクトの  
団体名・活動内容・  
主な活動地域**

**新規助成**

1	札幌市ホームレス者の健康支援と実態調査 北海道のホームレス者の健康支援を行う医師・医学生生の会(札幌市)
2	障害児・者とその家族のための生活支援サービス促進事業 サポート・ハウスはお(埼玉県蓮田市)
3	暴力被害女性支援「自然派レストラン・喫茶Saya-Saya」事業 地域生活支援ネットワーク女性ネットSaya-Saya(東京都荒川区)
4	薬物依存症の青少年のためのケア事業 特定非営利活動法人セルフ・サポート研究所(東京都江東区)
5	障害児・者に対するダンスワークショップ 特定非営利活動法人ポーロニア協会(東京都江東区)
6	DV被害女性及び同伴子の緊急一時保護事業 FTCシェルター(東京都)
7	ひきこもりサポートプロジェクト 日本アダルトチルドレン協会(JACA)(東京都世田谷区)
8	山山介護支援事業 特定非営利活動法人自立支援センターふさとの会(東京都台東区)
9	思春期の自立と精神保健を育むピアサポート事業 ティーンズポスト(東京都町田市)
10	不登校の子ども達のための六浦共同生活舎生活体験合宿 特定非営利活動法人コロフスアカデミー(神奈川県横浜市)
11	横浜寿町「さなぎの家」 なんでもSOS班 特定非営利活動法人さなぎ達(神奈川県横浜市)
12	障害者の地域生活を支える民間レスパイト事業 コンビニの会(愛知県名古屋市)
13	釜ヶ崎地域における「終わりなき」生活支援事業 木曜夜まわりの会(大阪府大阪市)
14	拘置所に収監中の薬物依存者へのインタベンション・プログラム フリーダム(大阪府大阪市)
15	日本在住外国人のための医療支援事業 社団法人まちづくり国際交流センター(奈良県橿原市)
16	不登校の子どもたちの健康と体づくりを考える 神戸フリースクール(兵庫県神戸市)
17	高機能広汎性発達障害の子ども達のサポート事業 岡山県高機能広汎性発達障害児・者の親の会(岡山県岡山市)
18	10代の生と性を考える ドラマスクールin三原 みはらおやこ劇場(広島県三原市)

**継続助成**

19	ショッピングセンターの機能を生かした福祉サービス 特定非営利活動法人自立支援センターファイティ(青森県上北郡下田町)
20	チャイルドライン千葉「子ども電話」 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター(千葉県千葉市)
21	川崎ホームレス保健プロジェクト「冬を生きぬき、春を呼びこめ」 川崎水曜/土曜の会(神奈川県川崎市)
22	中等教育を補う「コミュニティ・スクール」の実現をめざして 特定非営利活動法人リベラヒューマンサポート(静岡県三島市)
23	不登校児童・生徒の支援に係わるセミナー開催事業 特定非営利活動法人フレンジャー(兵庫県西宮市)
24	精神障害者のための「つどい」事業の普及実活動 障害を持ちながらも自立と納得いく社会参加を目指すふれあいセンター(沖縄県那覇市)



生演奏をバックに、体をゆったり丹念にほぐすストレッチ。心なしか表情も気持ちよさそうにゆるんでいる(写真上)。ボランティアの人たちやお母さんと一緒に楽しそうに踊っている

「美女と野獣」の曲が流れるなか障害を持つ子供たちが、車椅子のまま、あるいは立てる子はお母さんとボランティアに支えられながら、フロアー一杯に広がって踊っている。子供たちは動かぬ手足を精一杯伸ばそうとし、お母さんのリードで車椅子のままターンする。みんな笑顔があふれている。

「楽しみながら、継続的に舞台芸術に触れることが、障害者の心身の活性を導くと確信した」と、ポーロニア協会代表の岡崎直樹さんは言う。ある劇団に所属して学校公演で全国を回っているとき、たまたま養護学校を訪れる機会があり、ハンディを負った子供たちとの交流が始まった。そして劇場やコンサートホールに足を向けることに消極的にならざるを得ない障害児・者や、ともに生きる家族に、少しでも多くのいい舞台に接してもらいたいと、水原梨沙さんと95年にポーロニア協会を立ち上げた。以来、演劇やコンサート活動を続けるうち、舞台の上からだけでなく、子供たちも一緒に何かできないかと考えてきた。

「公演中、直接アーティストが働かせるときの子供たちには、言葉や身体が不自由でも、表現しようとする高揚

感が全身から感じられました」

そこで子供のころからバレエを習ってきた水原さんと、活動を共にしてきた演奏家によって今回のチームが結成され、障害者団体からも期待をもって受け入れられた。クラシックバレエのエクササイズには人間の心身に必要なたまが詰まっているといふ。

かくして今年1月からダンスワークショップが始まった。プログラムの最初の1時間は人みなストレッチとパーリジャンのギターとサックスの生演奏が気分をリラックスさせる。「普段ほとんど体を動かさない子供が多いから、体に負担がかからないようにゆっくりほくしていきましょう。そうすると子供たちの体や表情からエネルギーが感じられるよつになる」という。ストレッチの後の1時間がダンスタイムだ。

「今年暮れには発表会をやるつもりです」と意欲的な岡崎代表(右)と水原さん



「今年暮れには発表会をやるつもりです」と意欲的な岡崎代表(右)と水原さん

**【ファイザープログラム】  
心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援  
2002年度 募集要項**

1. 募集期間: 2002年7月1日～8月13日
2. 助成金: 1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間: 2003年1月1日～12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野: 特に次のようなプロジェクトを重視します。
  - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動  
→ おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
  - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身のケアを支援する活動  
→ 外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
  - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動  
→ 身体障害、知的障害、精神障害などの人々、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先: ファイザー製薬株式会社 企業文化部 03-3344-7524  
応募要項はホームページからダウンロードできます <http://www.pfizer.co.jp>

現在、このワークショップには午前中が15歳以下の子供たち8名、午後は18～30歳の8名が親とともに参加している。

「来るときはタクシーで来たのに、帰りは自分で歩いて帰る子もいます。体だけでなく、心も弾んでいくのが手にとるよつに感じられます」

「カゼで熱があるので今日はダンスどうしようかと聞いたたら、ニコニコ笑って連れてきました」

額にうつつすらと汗を浮かべたお母さんたちの声も弾んでいる。